

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	富合町立富合中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	73	70	71	2	216	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を目指した、きめ細かな指導のあり方を求めて ~徹底指導と能動型学習のめりはりをつけた授業の展開~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 全学年・全教科

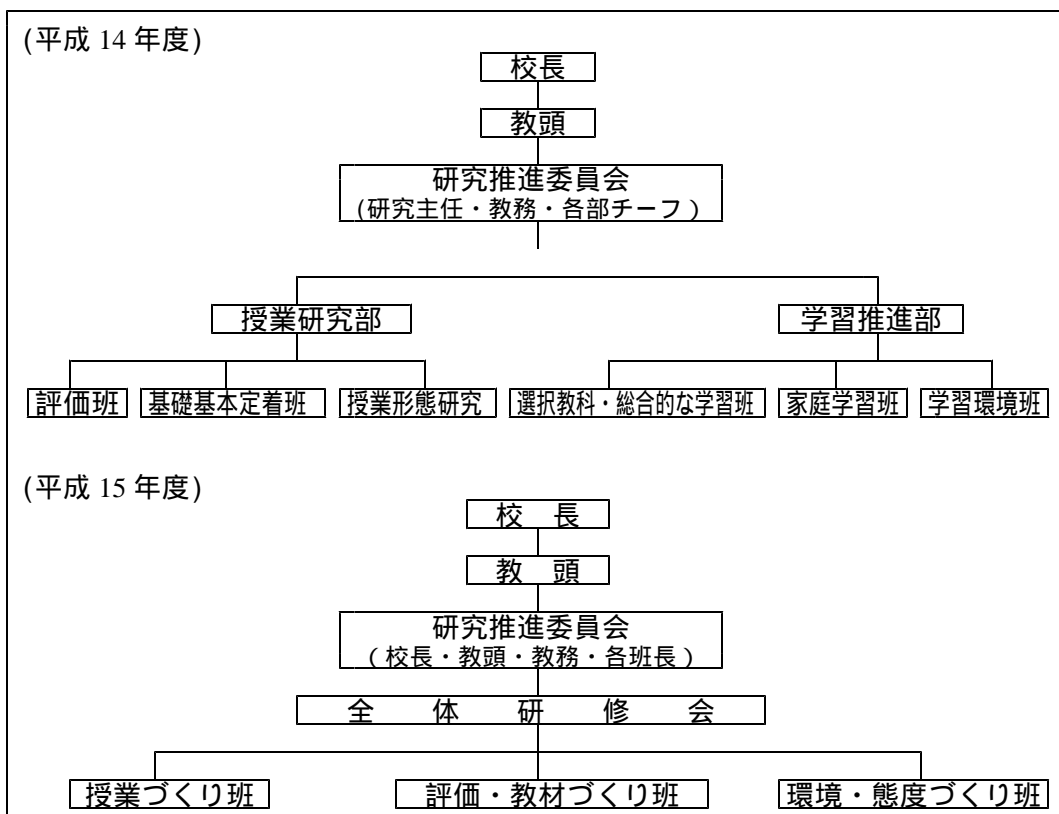
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力の向上のための、きめ細かな指導のあり方を求めて ~学ぶことへのやる気・意欲の向上を目指して~</p> <p>仮説 (1)各教科の特質を深く考え、工夫した指導方法を一貫して実践していけば、学ぶことへのやる気や学習意欲が高まり、確かな学力の基礎となる知識や技能を身につけた生徒が育つであろう。 (2)いろいろな場面で体験的活動等を計画的に取り入れれば、考える力、判断する力、表現する力をもつ生徒が育つであろう。</p> <p>研究内容 より的確に評価し、その後の指導に生かす評価の方法に関すること。 授業中及びその他の時間における基礎基本定着の手だて。 TT、少人数指導、その他の指導形態の工夫。 選択教科・総合的な学習の時間の工夫。 家庭学習定着の手だて。 学習環境の整備に関すること。 実態・変容の把握、家庭との連携、周囲への情報発信。</p> <p>研究方法 校内研修の年間計画の中に理論研究、授業研究会、講師の講話等を位置づけ、研究を進めていくとともに、日常的な実践の積み重ねにより、仮説を検証していく。 月1回全職員参加の授業研究会を開き、研究主題に迫る。また、その際に外部から指導主事等を招聘し、研究を深める。 授業研究会の成果や課題をもとに、その活用及び解決に向け、日常の授業の中で実践を積み重ねていく。 実態把握のため、生徒や保護者等に調査を実施し、調査結果の分析を通して課題への手だてを研究し、実践を通して、生徒の変容を目指す。 先進校視察や研究発表会への参加を積極的に進め、教職員の意識の変革、資質の向上を図る。また本校の取り組みを積極的に公開し、より広く指導助言を得て、研究の深化を図る。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指した、きめ細かな指導のあり方を求めて ～徹底指導と能動型学習のめりはりをつけた授業の展開～</p> <p>研究の見通し (1)各教科の授業の中で、教師が「教科における基礎・基本」を見極めた徹底指導と能動型学習を取り入れれば、確かな学力が身につくであろう。 (2)個に応じた授業づくりのため、TTや習熟度別学習での授業形態の工夫改善をおこなうとともに、発展的教材や補充的教材を開発し、効果的に活用すれば、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究の内容 徹底指導と能動型指導のめりはりをつけた授業づくり ・全教科での徹底指導と能動型学習の授業展開と工夫。 ・授業での指導と評価の工夫と改善。 個に応じたTTや習熟度別学習の授業形態の工夫改善 ・数学科、英語科において、個に応じたTTと習熟度別学習形態の工夫改善を図る。 ・個に応じた評価方法の開発 授業における発展的教材と補充的教材の開発 ・全教科での発展的教材や補充的教材の開発と検証。 ・評価規準及び評価基準の見直しと改善。</p> <p>研究の方法 授業づくり班、評価・教材づくり班、環境・態度づくり班の3班で研究実践に取り組む。 授業づくり班 ・全職員が研究授業をし研究主題にせまるよう早めに計画を立てる。大研では外部より講師を招き、研究の深化を図る。 ・徹底指導と能動型学習のめりはりをつけた授業展開ができるための指導計画を具体的に提案し、実践できるようにする。 ・個に応じたTTや習熟度別学習の授業形態の実践をとおり、さらに効果的な形態を提案していく。 評価・教材づくり班 ・1時間ごとの評価基準を明確にし、その中に発展的学習を組み込むよう提案し、年間指導計画を作成する。 ・先進校視察や参考文献により、授業における発展的教材と補充的教材を具体的に開発できる提案をし、実践を管理する。 ・効果的な自己評価や相互評価を開発し、提案して実践する。 環境・態度づくり班 ・学力テストや学期ごとの学習や生活評価の調査をし実態を分析する。 ・「学びのてびき」を作成し、生徒に勉強の仕方を周知徹底させる。 ・視点を明確にし、教育効果が上がる教室設営の提案をする。 ・基礎的基本的学力の定着のための時間を設定し、運営する。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身につけ、主体的に生きる生徒の育成をめざして ～個を生かす徹底指導と能動型学習のめりはりをつけた授業の工夫～</p> <p>研究の見通し (1)各教科の授業の中で、教師が「教科における基礎・基本」を見極めた徹底指導と能動型学習を取り入れれば、確かな学力が身につくであろう。 (2)個に応じた授業づくりのため、TTや習熟度別学習での授業形態の工夫改善をおこなうとともに、発展的教材や補充的教材を開発し、効果的に活用すれば、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究内容・方法 平成14、15年度の成果と課題を踏まえ、実践的研究を重視し、仮説の検証を図りながら、研究の充実、深化を図る。 3年間の研究実践をまとめ、研究発表会を開催し、その成果と課題を公開する。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 1 授業づくり班
 - ・全教科の研究実践や理論研究を計画的に位置づけたため、校内研修の充実を図ることができた。
 - ・個に応じた TT や習熟度別学習の授業形態の工夫改善を視点とした授業ができた。英語科においては、県教委と教育事務所より直接指導をいただき、今後の方向性が明確になった
 - ・徹底指導と能動型指導のめりはりをつけた授業づくりを具現化するため、視点を定め指導計画を作成している。
- 2 評価・教材づくり班
 - ・標準学力検査やゆうチャレンジの結果をもとに全生徒の分析を行い、指導に生かせるようにした。
 - ・教育計画の中に 1 時間ごとの評価基準を設定するとともに、補充的教材や発展的学習を開発し位置づけた。また、発展的教材例を作成しつつある。
 - ・自己評価や相互評価の具体例を提示し、いくつかの教科で実践できている。
- 3 環境・態度づくり班
 - ・「学びの手引き」を作成し、全生徒に配布し徹底を図るとともに、特に必要なことは、教室前面に掲示した。
 - ・学習や生活を振り返る生徒の自己評価を毎学期実施し改善を図っている。
 - ・全校一斉の基礎学力作りの設定や家庭学習の習慣化が定着するために、「DASH ノート」を活用して定着させている。

2. 今後の課題

- 1 授業づくり班
 - ・ T Tについてはさらに指導形態や習熟度別学習への展開など多様な試みが求められる。
 - ・ 徹底指導の能動型学習の全教科での具体的実践例の作成。
 - ・ 「発展的教材と補充的教材」、「徹底指導と能動型学習」の理論づくりの工夫。
- 2 評価・教材づくり班
 - ・ 発展的な教材のさらなる開発と効果的な導入についての研究。
 - ・ 自己評価や相互評価を指導に生かす工夫。
- 3 環境・態度づくり班
 - ・ 学習や生活を振り返る自己評価をさらに詳しく分析すること。
 - ・ 「DASHノート」のチェック体制の確立。

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査(年1回)	ゆうチャレンジ(年1回)
定期テスト(年4回)	宇城学力定着度テスト(年1回)
実力テスト(2回)	3年生共通テスト(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 宇城地区学力向上推進協議会にて取組報告(平16年1月29日、宇城総合庁舎)
* 研究発表会 平成16年11月

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無